

1 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

「敬愛・自主・力行」を教育目標とし、知的好奇心を高める授業、キャリア教育、班活動（部活動）、国際交流の推進といった教育活動を通じて、高い志をもって自らの進路を追求する生徒、学習と行事や班活動（部活動）の両立に全力で取り組む生徒、広い視野をもち国際社会で活躍する生徒の育成を目指す。

(2) 教育目標

心身の健全な発達を図り、良識ある有為な人材を育成するため、「敬愛」・「自主」・「力行（りっこう）」を教育目標に掲げ、教育活動に邁進する。

「敬愛」とは、学ぶ者としての真摯で謙虚な態度と他者を思いやる心

「自主」とは、自ら考え、積極的に行動すること

「力行」とは、目標に向かって、志高く努力し続けること

(3) スクール・ポリシー

①グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校は小山台教養主義（すべての学問は通じている）を通して、次のような資質・能力を育てる。

(ア) 教科を越えた学び・・・教科の枠を越えて、広く学ぶ。

(イ) 意見の構築・・・学びから得た知識・技能を基に思考・判断を重ね、自分の考えを構築する。

(ウ) 多様性の尊重・・・多様な考えを認め、健全な価値観を養い、よりよい道を創造する。

このことにより、言語能力、理数的能力、情報通信技術力、思考力・判断力、情緒力・創造力、情報活用力、コミュニケーション力、科学的探究力、健康に生きる力を身に付け、学びを絶やさず自らを高めていける人物、他者を理解し協働できる人物、世界に目を向け社会に貢献できる人物を育てる。

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校は次のような教育活動を展開する。

(ア) 生徒の知的好奇心を高め、幅広い教養と探究心を身に付けるために、授業研究による工夫と ICT 機器の活用など授業改善を徹底して行い、活力ある授業に取り組む。

(イ) 学問を志す者としての基本姿勢を身に付けるために、挨拶や望ましい言葉遣い、時間厳守の励行、身だしなみを整える等、規範意識を高める取組を行う。

(ウ) 自己を肯定的に捉え、他者の価値を認め敬う心を育てるために、自己の在り方、生き方を考える取組を行う。

(エ) 進学指導特別推進校として、高い志をもって、自らの進路を実現するための努力を怠らない生徒を育てるために、キャリア教育を充実し、生徒の進路実現に向けた取組を行う。

(オ) 何事にも前向きに取り組む姿勢を育成するために、学習とともに、学校行事や班活動（部活動）への積極的な参加を奨励し、目標に向かって努力する活動を行う。

(カ) 広い視野と豊かな人間性を育み、国際社会で活躍する次世代のリーダーとなりうる人材を育成するために、外国語教育及び国際交流を推進する。

③アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

本校は「敬愛・自主・力行（りっこう）」の態度を養うことを教育目標に掲げ、向上心にあふれ常日頃から努力を怠らず、自らの目標を達成できる人材の育成に努めている。そこで、次のような生徒の入学を期待する。

(ア) 大学進学への意欲が高く、また、自らすすんで学業に取り組み、目標を達成しようとする志の高い生徒

(イ) 学校行事や生徒会・委員会活動、部活動等において、中心的な存在であった生徒、もしくは、何事に対しても真剣な態度で臨み、地道な努力を重ねてきた生徒で、入学後も引き続き努力を続けられる生徒

(ウ) 諸外国の歴史や文化及び国際交流等に強い興味と関心をもつ生徒。特に推薦選抜においては、上記(イ)に該当する生徒が望ましい。

2 中期的目標と方策

進学指導特別推進校として、「夢を諦めない」指導を行ってきた結果、難関国公立大（東京科学大・一橋大・国公立大医学部）に現役合格者6名、国公立大に現役合格者82名、難関私立大（早・慶・上智大・東京理科大）に現役合格者119名という進学実績を上げることができた。

このような成果を踏まえ、幅広い教養と探究心を身に付け、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい解を生み出すことができる人材を育成するために、次の方策に教職員が一丸となって取り組むとともに、カリキュラム・マネジメントを推進する。

(1) 生徒の意欲を引き出す授業の追求

これまでのレクチャ（教員による講義）による授業を見直し、デジタル技術を柔軟かつ適切に組み合わせ活用し、個別最適な学びの提供に努める。また、教員は生徒への学びを促進するファシリテーターとして、一人一人の学習意欲を引き出し、主体的・対話的・協働的な授業を追求する。

(2) 地域や社会の人的・物質的な資源を活用した多様な学習の場の創出

社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって粘り強くチャレンジし、主体的に学び続ける資質・能力を育成するために、外部の人的・物理的資源を教育活動に取り入れ、社会とのつながりを深める多様な学習の場を創出する。

(3) 「TOKYO・スマートスクール・プロジェクト」(学び方・教え方・働き方の改善)の実現

一人一台端末をはじめ、各種 ICT 機器を授業や校務において活用し、授業の改善や校務の効率化を図ることにより、生徒と関わる時間を確保し、よりきめの細かな指導を実践する。

(4) 班活動（部活動）実績の向上と国際交流の推進

小山台高校の伝統を引き継ぎ、学力とともに特別活動、班活動（部活動）の活力を維持し、両立を図り、豊かな人間性を育む。また、国際交流やキャリア教育を一層積極的に推進し、言語能力の向上を図るとともに、生徒の国際社会への関心を高める。

(5) 心身の健康・安全対策の強化

安心・安全且つ、体育的な活動に積極的に取り組むための環境の整備を進めるとともに、保健指導、安全指導等を充実する。また、教育相談機能の充実を図り、心身の調和のとれた発達を促す。感染症の予防対策に取り組む。

(6) 広報活動の推進

「行事や班活動を活発に行い、難関国公立大学をめざす生徒が集う小山台高校」という認識を広めるために、組織的・積極的な広報活動を行う。

(7) 未来構想委員会の設置

「小山台高校未来構想委員会」を設置し、創立100周年の伝統を踏まえながら、今後さらに魅力ある小山台高等学校とするために、その在り方等について検討する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

今年度の取組目標	具体的な方策
生徒の意欲を引き出す授業の創出	・一人一台端末をはじめ、ICT 機器、Teams や Forms 等を活用した教育実践を推進する。 ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的な深い学びの視点から授業改善を図り、知的好奇心を一層高める。 ・探究型学習プログラム「MIRAI」において、自己の在り方生き方を考えながら、課題発見、仮説設定、検証考察、発表、小論文作成等の探究活動を通して、よりよく課題を発見し、解決していく資質・能力を育成する。 ・「大学入学共通テスト」に対応するための教科研修・授業研究を積極的に実施する。

	・若手教員を育成するために、「若手教員研修会」を校内に設置し、授業研究や研究協議、他校訪問(授業参観)等を通じて、相互に研鑽し、教科指導力や生徒指導力等の向上を図る。
学習指導要領に基づく学習指導の充実	・各教科で、学習指導要領に基づく年間授業計画を策定し、組織的、体系的な学習指導を進めるとともに、積極的に外部の人的・物理的資源を教育活動に取り入れる。 ・GE-NET EE校（Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education）として、オンライン英会話やJETとのコミュニケーション、スピーチコンテスト等を通して4技能のバランスのとれた英語力を身に付けるとともに、英語外部検定等の結果を活用し、英語教育の充実を図る。 ・同一科目内での考查問題の共通化を図るなどして、学習指導計画に基づき適正に観点別学習評価を実施するとともに、検証し、改善を図る。 ・進路部や学年との連携をこれまで以上に密にし、各教科において統合型校務支援システム、定期考查採点・分析システムの活用を図りながら、各種テストのデータを基にした分析会を開催し、指導の改善を図り、生徒の弱点を克服し、学力を向上する。
学習習慣の定着	・生徒の学習の状況や進学希望に応じて、長期休業期間等を活用した講習会や個別の学習指導を実施することにより、学力向上と進路実現を支援する。 ・切り替えと集中を徹底するとともに、学習手帳を活用するなどして、三点固定の生活を身に付け、予習・復習を習慣化させ、家庭学習時間の増加・定着を図る。また、隙間時間を活用した学習を推奨する。 ・宿題、週末課題などの量、課題提出日や小テスト実施日などについて教科間で調整を図り、生徒への負担を適正化する。

②進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策
キャリア教育の充実	・進路部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高める。 ・外部の人的・物理的資源を取り入れた学習活動「社会人によるキャリアガイダンス」等を通して、広い視野で社会を見る眼を育てる。 ・進路先を適切に選択するとともに、大学進学への意欲を高めるために、キャンパス探索や体験授業などにより大学を体感する大学見学会の実施を検討する。
組織的・系統的な進路指導の充実	・全国模試等のデータを活用した分析会を開催し、同時期の学力の定点観測や同一学年の学力の伸び方の測定を丁寧に行い、学習指導や進路指導を進めるとともに、第一志望を諦めない生徒の姿勢を育てる。 ・進路行事(第一志望校宣言、勉強合宿、進学希望別グループワーク、難関国公立大学講習、進路懇談会等)や個別面談等を通して、生徒に高い目標をもたせるとともに、すべての教科担当者が出席し、個々の出願先を検討する出願検討会を実施することにより、(難関)国公立大学、難関私立大学への進路希望を実現させる。
休業中の講習等の充実	・生徒の進路希望に応じた進学講習の充実を図るとともに、実施方法を工夫し、生徒がこれまで以上に前向きに講習に取り組む意欲を引き出す。 ・班活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

③生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策
規範意識と自己指導力等の育成	・最低年4回生徒部と学年生活指導担当者との拡大生徒部会を開催し、生活指導について連携を図り、登校指導をはじめ、様々な場面で、あいさつをする、ルールを守る、身だしなみをきちんとするといった学校生活における基本的なマナーを適切に指導することにより、規範意識を育てる。 ・授業開始のチャイムと同時に授業を開始することなどにより、授業に取り組む姿勢をつくる。 ・時間の切り替えと集中を徹底して指導（定時制との施設共有の意味を理解させ、17時の下校時間を意識させる指導を徹底）し、家庭での学習時間を確保できる生活習慣を確立する。 ・生徒の問題行動等への対応において、保護者、地域住民、関係機関と連携・協力できるサポート体制を確立し、生徒の健全育成を図る。 ・自他の生命を尊重し、より安全に登校するために、交通安全指導を実施し、登下校時等の自転車乗車中のヘルメットの着用を指導する。
いじめの予防と教育相談の充実	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けていじめ防止対策委員会を定期的に開催する。 ・SNS等の使用ルールである「小山台 SNS ルール」の指導を徹底することにより、SNS等を適切に利用できる能力・態度を育てる。

④特別活動・班活動（部活動）

今年度の取組目標	具体的な方策
特別活動の充実による活力ある学校づくり	・生徒会活動等や、合唱コンクール、文化祭・運動会からなる「寒菊祭」等の特別活動等において、余裕をもって準備ができるように計画し、生徒が主体的に取り組めるよう配慮することで、課題解決力を育成し、活力ある学校づくりを進める。 ・学校行事等の終了後は、直ちにアンケート等による振り返りを実施し、次年度に向けた見直しを図る。 ・予算については、経営企画室と連携を密にし、計画的に準備するとともに、適正に予算執行を行う。
班活動の充実	・東京都教育委員会の「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」に基づき積極的に休養日等を設け、短時間で最大限の成果を上げる合理的・効果的な活動を取り入れ、班活動の充実を図り、学習時間を確保する。 ・勝つことのみを目標とせず、自己肯定感や所属意識を高め、何事にも積極的に取り組む姿勢を身に付けさせ、他者を尊重する態度や責任ある態度を育て、豊かな人生を送るための資質や能力を培う。 ・班活動ごとに口座を開設し、班費を一元管理し、管理職が定期的に通帳や現金出納簿を確認することによって、適正な班費の執行管理を行う。
国際理解教育の充実	・GE-NET EE 校（Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education）として推進していく。 ・小山台教育財団が実施する英国への体験派遣やドイツとの交換交流に生徒を参加させ、その成果を校内に還元させるとともに、隔年でドイツベルリンにあるカニジウス校の生徒を受け入れ交流を深める。また、都教委が実施する海外との交流事業「次世代リーダー育成事業」や「都立高校生等海外派遣研修」等に参加できるように積極的に生徒を支援することにより生徒の国際社会への関心を高める。

⑤健康づくり、安心・安全な学校づくり

今年度の取組目標	具体的な方策
心身の健康増進と安心・安全な学校づくり	・保健体育等の教科や班活動、体育的学校行事などの様々な場面を通じて生徒の体力の向上及び健康の保持増進を図る。 ・スクールカウンセラーと連携を進めながら、月に1回開催の「カウンセリング委員会」において生徒情報を共有するとともに、専門医派遣事業を活用するなどして、生徒の心の健康を増進する。 ・RAMPS やコンディションレポート等を活用し、生徒の心身の状況の把握に努めるとともに、メンタルヘルス講習会、がん講習会等、SOSの出し方に関する授業等、生命尊重に資する教育を推進する。 ・消防署、地域の消防団、品川区防災課と連携し実施する地域防災訓練や救命救急講習を通して、自助・共助の精神と技能を高める。 ・校内美化の推進を通して、学習環境の整備に努める。 ・教職員に学校事故の事例を情報提供することによって、未然防止への意識を高め、教育活動等における事故防止に努めるとともに、事故発生時の管理職への報連相を徹底し、組織的に対応する体制を整える。

⑥募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策
組織的・積極的な募集活動の実施	・中学生やその保護者、地域の方々に学校を訪れ、生徒の活動の様子を直接見ていただく学校見学会・説明会の機会を、夏季休業中を中心に増加させるとともに、内容の充実を図り、すべての教職員の協力の下、教育活動や特色を広報する活動を行う。 ・1年生の出身中学校訪問を通して、中学生や教員に本校の学校生活についてPRする。 ・中学校、塾を積極的に訪問するとともに、塾を対象とした授業参観・学校説明会を開催し、小山台の良さを発信する機会を増やす。 ・学校説明会や学校見学会は担当分掌が中心となるが、経営企画室職員も参画し、全教職員が分担、協力して実施する。
・ホームページによる情報発信の充実及び保護者との連携の深化	・ホームページの内容の充実を図り、全教職員が本校の教育活動を積極的に掲載し、学校からの発信力を高める。 ・保護者向けに学校情報や進路情報を伝えるために、ホームページの更新回数を増やすとともに、保護者会、保護者進路説明会等を充実し、学校と家庭との連携を一層深める。

⑦学校経営・組織体制

今年度の取組目標	具体的な方策
組織マネジメントによる学校経営	・これまでの伝統を踏まえながら、さらに魅力ある小山台高等学校とするために、企画調整会議参加者からなる「小山台高校未来構想委員会」を月に1回程度開催し、本校の在り方について検討を進める。 ・分掌組織等がチーム(組織)として業務を推進するとともに、課題を解決する意識をもち、マネジメントサイクルにより事業の改善を図る。 ・企画調整会議を中心として、各分掌内部及び各組織間の連携を強化し円滑な組織運営を図る。 ・メリハリのある効率的な予算編成と確実な執行(選択と集中) ・全教職員で効率的な仕事の仕方を追求し、勤務時間の軽減を図る。
T o k y o ・スマートスクール・プロジェクトの実現	・各種 ICT 機器、統合型校務支援システム、定期考査採点・分析システム等を授業や校務において積極的・効果的に活用し、働き方を見直す。 ・各種会議のペーパーレス化と電子起案100%を推進する。

学校の特色化とカリキュラム・マネジメントの推進	・生徒の学力向上や学校の特色化を図るために、都教育委員会の指定事業「進学指導特別推進校」と「英語教育研究推進校」との効果的な結合を図る。 ・生徒による授業評価や学校評価アンケート等を活用するなどして、PDCA サイクルによる教育課程の改善を図る。 ・各教科の統一した規準による観点別学習評価を実施・検証・改善を図る。
教育公務員としての信頼の確立とライフワーク・バランス	・生徒や保護者等との信頼関係を高めるために、生徒や保護者にきめ細かく、丁寧に対応するとともに、研修等を通して、体罰や個人情報の紛失などの服務事故の根絶に取り組む。 ・職員室及び経営企画室等の整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、見通しの良い執務室を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに、教育環境・職場環境の整備を推進する。 ・男性教職員の育児休業の取得を推進するとともに、「学校における働き方改革の推進に向けたプラン」に基づき各種会議の時間短縮や校務の改善を図り、夏季休暇5日、年次有給休暇15日以上取得するなどにより、ライフワーク・バランスを推進する。

⑧経営企画室

今年度の取組目標	具体的な方策
学校経営への参画	・教員と連携・協力しながら、経営企画室の学校経営への参画と事務処理の円滑化を図る。 ・行政視点をもって取り組み、教員に対して課題等があれば問題点を指摘する。また、経営企画室に関しては、具体的な事務の効率化を図る。 ・生徒、保護者、都民にとっての学校の最初の窓口として、接遇マナーの向上を図り、丁寧に対応する。 ・学校行事や保護者会活動に積極的に参加する。
効率的で適切な予算編成と執行	・校長が作成する学校予算編成指針に沿って、教員と連携を図り、学校教育目標達成に向けた予算編成を行う。 ・学校徴収金の管理等を適切に行うとともに、予算の有効活用を図るために、計画的に予算を執行し、自律経営予算の執行率及び一般需要費のセンター執行率を向上する。 ・安全な学校教育、職場環境を維持するために、施設・設備、備品の点検や安全管理体制のチェックを繰り返し行い、維持、更新を図る。

(2)重点目標と方策

①家庭学習の定着（自らが主体的に学ぶ家庭学習時間の増加）

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績	令和 4 実績
1,2 年家庭学習時間 2 時間以上	70%以上	<u>40%</u>	<u>40%</u>	51%
1,2 年家庭学習時間 3 時間以上	35%以上	<u>10%</u>	<u>14%</u>	31%
1,2 年夏期・冬期講習講座数	15 講座以上	<u>13 講座</u>	17 講座	15 講座

②定点観測 11 月の外部模擬試験（総合成績における総合偏差）

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績	令和 4 実績
1 年生 74 以上	10 人	<u>8 人</u>	11 人	6 人
68 以上	60 人	<u>38 人</u>	55 人	48 人
60 以上	200 人	<u>181 人</u>	<u>207 人</u>	182 人
2 年生 74 以上	10 人	<u>10 人</u>	6 人	4 人
68 以上	50 人	<u>41 人</u>	34 人	36 人
60 以上	180 人	<u>161 人</u>	<u>148 人</u>	143 人

③進路指導

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績	令和 4 実績
大学入学共通テ 5(6)教科 7 科目受験者	200 名以上	205 人	191 人	162 人
難関国公立大学合格者	15 名(現役 8 名)	10(6) 人	11(6) 人	13(8) 人
国公立大学合格者	135 名(現役 105 名)	103(82) 人	102(81) 人	108(91) 人
難関私立大合格者	180 名(現役 140 名)	158(119) 人	167(128) 人	178(129) 人
3 年夏期・冬期講習講座数	70 講座以上	71 講座	71 講座	60 講座

※大学入学共通テスト理系 5 教科 7 科目・文系 6 教科 7 科目受験者数

※難関国公立大＝東大・京大・東京科学大・一橋・国公立大医学部

※難関私立大＝早大・慶大・上智大・東京理科大

④特別活動等

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績	令和 4 実績
部活動加入率	100%以上	108%	102%	102%
都ベスト 8 以上	5 班以上	3 班	3 班	0 班
運動会、文化祭の来校者数	5,000 名	5,614 名	2500 名	制限あり

※運動会、文化祭の来校者数は新型コロナウイルス感染防止の観点から目標値設定せず

⑤募集・広報活動

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績	令和 4 実績
学力検査での受験倍率	1.7 倍以上	1.46 倍	1.25 倍	1.51 倍
説明会等への参加者	4,500 人	4,791 名	3,246 名	2,880 名
技術講習会実施班活数	9 班	5 班	8 班	7 班
ホームページの更新回数	200 回以上	210 回	146 回	160 回

⑥ライフワーク・バランスの推進

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績
夏季休暇 5 日の取得	全教職員	全教職員	全教職員
年次有給休暇 15 日以上取得した職員	70%以上	70%	45%

⑦スマートスクール構想の実現と主体的、協働的な深い学びによる授業実践

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績
・Wi-Fi 環境を活用した一人一台端末をはじめ、ICT 機器を活用した授業の実践	100%	68%	76%
・レクチャー型の授業の見直し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的な深い学びの視点からの授業実践	100%	82%	76%
・全教職員による Office365 を活用した教育実践	100%	65%	71%
・定期考査採点・分析システムの活用の推進	95%	95%	38%

※目標数値は、実践した教員/全教員

⑧自律経営推進予算及び学校経営支援センターにおける一般需用費の執行率

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績
・自律経営推進予算執行率	95%以上	99.9%	98%
・一般需用費のセンターでの執行率	95%以上	58.2%	100%

その他(主に学校評価アンケートによる数値)

項 目	目 標	令和 6 実績	令和 5 実績
・生徒の学習指導への満足度(親身な指導)	80%以上	76%	76%
・生徒による本校入学への満足度	90%以上	88%	88%
・保護者による生徒の本校入学への満足度	95%以上	92%	92%
・生徒による ICT 教育推進の満足度	95%以上	92%	56%